



だより



真夏の日差しがざらざらと照りつける日が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。今回は株式会社明昭の第一号開設施設でもあるハートランド明生苑の取り組みをご紹介します。

《ハートランド明生苑のメダリスト》

去る5月28日、足立消防署にて「自衛消防審査会」が開催されました。

「自衛消防審査会」とは、事業所の自主防災行動・防火意識の向上を目的とした東京消防庁主催の所管消防署単位で行う審査会です。

地域の多種多様な事業所が日頃の成果を競うイベントで、ハートランド明生苑では「入居者の命を守る」という事を念頭におき、「ハートランド明生苑アルファ」として隊長の介護課リーダー橋澤さんと、隊員として同じく介護課リーダー高橋さんが参加しました。

審査会の数週間前から勤務終了後に、声だし、号令の練習を行ってきたそうです。

当日は消防隊の方が見守り中、練習の成果を堂々と発揮されました。

緊張の中にも一つの事に集中し、やり遂げようとする姿は

とても勇ましく、堂々たるものでした。その結果として、

銀メダルを獲得することが出来ました。今後も安全に、

安心した快適な生活が送れるように防火意識向上に努

めて参ります。



みかんの花咲く丘

2015年8月15日、終戦から70年を迎えます。今回はハートランド明生苑、ご入居中の石川はま子様にご当時のお話と思い出を伺って参りました。

今年は終戦から70年という節目の年に当たります。この節目の年に、今一度振り返り、この時代に生きている事に改めて感謝したいと思います。現在、ハートランド明生苑にご入居されております石川はま様は 明生苑にいらして2年になります。いつも朗らかに周りの人たちと分け隔てなくお話をされる石川様は誰からも愛され、慕われております。石川様は大正の時代が終わり、昭和に元号が変わった年に静岡のとある町にお生まれになりました。緑豊かな町で、厳格なお父様と穏やかな中にも厳しさのあるお母様と、兄弟姉妹8人とお過ごしになりました。18歳になり、海の近くの食糧関係の仕事で、親戚の家に下宿をしながら経理の職に就かれました。

しかし、その頃になると戦争は激しさを増し、人々の生活も辛酸をなめるような苦しさを伴うものとなりました。石川様のお姉さまは赤十字の看護師として、南方に行きました。終戦前に帰還できましたがお姉さんが不在の間、石川様が家族を支え、頑張ったそうです。石川様のお勤めになられていた地域には、幸い、空襲はおきませんでした。手の届きそうな近いところを飛行機が飛ぶ度に恐怖を覚え、皆で防空壕に逃げ込んだそうです。しばらくして防空壕から出て外を見ると、東京の空の方が赤くなっていたそうです。

石川様のご両親は、それからの激動の時代をお過ごしになりました。

他界されたご両親からは、「ご先祖様をお守りする」と言う事と、自分達が逝く時には参列者の方に負担を掛けない暖かな日が良いと話されていたそうです。幸いその願いは叶ったそうです。

石川様の生家は、日本を代表する童謡の一つである「みかんの花咲く丘」の舞台となった所の近くです。

「みかんの花咲く丘」は終戦直後に生まれた、日本を代表する童謡の名作の一つとして知られています。

この曲を皆で歌う度に、当時の事を思い出すととても大切な曲だそうです。人々の心に染みわたる名曲は歳月がどんなに流れようとも人々に歌い継がれて行き、薄れかけた記憶を蘇らせてくれるきっかけともなります。懐かしい曲を聴いて昔を思い出す...そんな穏やかな日常がいつまでも続くように願うばかりです。

ハートランド明生苑
生活相談員 竹中さん、池田さん

お二人の間にいらっしゃるのが
石川 はま子様
素敵な笑顔です。

